

2024年
小学5・6年生

夏休みにおすすめの本

『夏に、ネコを探して』 K913 ニシ

西村俊也 作 徳間書店

夏休みに亡くなった祖母の家に引っ越してきた小学6年生の佳斗(けいと)は、いなくなってしまったネコのテンちゃんを探します。

ネコを探して街を歩いていると長い髪の男の子、蘭(らん)と出会います。ネコに詳しい蘭がネコ探しを手伝うことになりましたが…。

本当の友達と出会う夏の物語です。



『パフィン島の灯台守』 K933 モハ

マイケル・モーパーゴ 作 ベンジー・デイヴィス 絵

佐藤見果夢 訳 評論社

ある大嵐の夜、パフィン島沖で遭難した少年アランは灯台守ベンに命を助けられます。あの子の事を忘れず、命の恩人にお礼を言いたいと思っていたアランは、学校を卒業すると、ベンに会うためパフィン島に向かいます。そこで出会った一羽のパフィンをとおして二人の絆はさらに深まります。



『べんり屋、寺岡の夏』 K913 ナ

中山聖子 作 文研出版

小学5年生の美舟の家はべんり屋をしていて、おばあちゃん、お母さん、そして家にあまり帰ってこない画家のお父さんと暮らしています。べんり屋の仕事は、ひとり暮らしのおばあちゃんの話し相手になったり、庭の草むしりをしたりとさまざまです。坂の町尾道に暮らす人々のあたたかい物語で、秋・冬・春と続編もあります。



『天の台所』 K913 オチ

落合由香 作 講談社

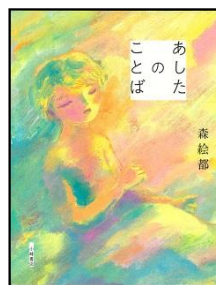
天は去年の冬に美味しいご飯を作ってくれたばあちゃんを亡くし、お父さんと弟、妹の四大家族になりました。ある日、お父さんの気づかずにイライラしてしまった天は、近所の駄菓子などが売っている店の前を通り過ぎようとした時、あまりの美味しそうなおいにお目を見はります。その店はガミガミと口うるさい“がみババ”がいる店でした。



『あしたのことば』 K913 モリ

森 絵都 作 小峰書店

周也と律は小学校四年生からの友達です。二人は昼休みにクラスメイトのみんなと「色々なもののどちらが好きか」話しますが、律だけは上手く答えることができません。あいまいに答える律に、周也はつい言わなくていいことを言ってしまう。その言葉は律の心に刺さり、棘のように残ってしまうのでした。二人は気まずいまま、放課後一緒に帰ることにします(「帰り道」より)。



『百まいのドレス』 K933 エス

エレナー・エスティス 文 ルイス・スロボドキン 絵

石井桃子 訳 岩波書店

女の子たちがペギーの新しい服に大騒ぎしていると、ワングはうちにドレスを百まい持っていると言ってみんなを驚かせます。そのことでワングはからかわれ、仲間はずれにされてしまいます。ペギーの友だちのマデラインはみんなといっしょにワングをからかうことが苦しくてたまりません。その頃、学校ではデザインコンクールが開かれ、だれが一等賞をとるかというわさでもちきりでした。

